

## 「放射線防護技術促進のための東電の社内競技会」

平 純一氏(東京電力)

放射線防護技能の向上を目指した東京電力の「全社技術技能競技会」についての発表である。この競技会は毎年開かれているが、今年は初めて放射線防護スキルについても競技が行われた。競技会は、第一線の技術者が、技術や技能を競い合い、社内での意識を高めると同時に、外部に技能・技術をアピールすることを目的とするもので、部門別に実施される。良好事例は他の部門や発電所にも水平展開する。初の放射線管理部門は今年の4月10日に福島第一原子力発電所で行われた。

競技内容は、模擬管理区域を訓練センター内に作り、所定のシナリオに従って作業を行うというものである。シナリオは、震度5の地震でプラント自動停止した後、放射性物質を含む水が比較的線量の高い区域で漏洩し、しかも非管理区域外にまで漏洩していたというもの（昨年の柏崎刈羽の事象に近い）。作業としては放射線量の評価を行う。詳細なシナリオは伝えていないが、概略は事前に伝えてあるので、各チームは事前に練習してから参加している。1チーム6人で、持ち時間は70分である。福島第一、福島第二、柏崎刈羽の合計3チームが参加した。

審査は、①安全性、②作業の質、③効率性の三つ観点からなされ、各々チェック項目が設定されている。安全性40、作業の質30、効率性30の計100点で審査される。競技実施時には審査員が周囲にあり、安全確認しているか、線量率の低い区域を作業のために上手に使っているか、適切に防護しているか、正しい測定器を選んで使っているかなど、総合的に評価する。

今年の競技会の結果、3チームの総合点は拮抗しており、放射線管理スキルにはほとんど差は見られなかったが、福島第二チームが優勝した。また、今回の競技会を通じて、水漏れ対策に対する放射線管理をアピールできた。



### Looking Back on the Competition - Summary

- **Publicity** about the effort of our radiation control department regarding water leaks
- **Appreciation** of the level of techniques and **skills** for radiation control and **motivation**
- **Drills** repeated in preparation for competition
- **Task** brought up in the review discussion